

「非常時の吸引」

今回の震災で、非常時の備えが大切だと感じられました。特に、人工呼吸器を利用している私達にとって、停電対策は必要不可欠なものです。短時間であれば内・外部バッテリーで対応できますが、呼吸器以外でも吸引器・ベッド・エアマット・パソコンスイッチなど様々な物が作動不可能となります。なかでも吸引は生命に関りますので、停電時でも使用可能な物が重要です。

訪問看護ステーションやすらぎのスタッフが、ペットボトルを利用した手動吸引器を試作し、試用してみましたので報告します。なお、作り方は下記のサイトから引用しました。

『災害時情報交換 <http://e-iryo.net/sai/?p=89>』

<手動吸引器の作り方：簡単な順>

- ①医科からなるべく大きなプラス注射器（20・50ml それ以上）を貰い、カテーテルチップから吸引ください。
- ②ペプシネクストの500mlの容器（円柱形でくびれがあるタイプ）が、おしてもつぶれず、きちんと再膨張し、ほどよい弾性と耐久性を持っており、コップの水を100cc～150cc吸い続けるくらいのパワーがあり、とてもいいあんばいです。蓋にライターで熱した釘やドライバーなどで穴をあけ、12Frの吸引カテーテルの接合部を切つてはめ込むだけです。吸引は手でボトルを圧迫した状態でカテーテルを挿入し、圧迫を解除するだけです。中もきれいに洗えますし、チューブの取り換えも差し込むだけでOK
- ③ペットボトルの蓋が硬いなど穴をあけられる道具がないときは、直接ペットボトルにコンパスの先や針金で穴をあけ、カテーテルチューブを両脇に差し込んでください。この時チューブとペットボトルの隙間を瞬間接着材やセメダインなどで埋めないと空気が漏れます片方のチューブを吸引に使い、もう片方から口で吸うか、吸引力は①②を応用ください。ひよっとしたら、無電気下での緊急事態手術の吸引にも使えるかもしれません。

《試用報告》

まずは口の唾を吸引してみました。カテーテルをくわえ口を閉じると結構うまく唾が引けます。これならメラチューブの代用になりそうです。くわえたままボトルを押すと口中が空気で一杯になり苦しくなるので、カテーテルを出してから押してくわえた方が良さそうです。ただし、長時間の使用は介護者の負担が大きいので、メラチューブ利用者は電池式ポンプを準備したいものです。外出時でも利用でき便利です。



次に痰が絡むのを待ち、気管カニューレから吸引してみましたがまるつきり引けません。手ごたえもありません。たとえば、コップの水をストローで吸う時、ストローの先が水に浸かっていなければ吸えないのと同じです。カニューレ入口まで痰が上がっていれば吸引可能かもしれません。



《ALSメーリングリストへの投稿より》

東京中野のやまもとです

足踏み式吸引器作ってみました。

材料は普通の吸引器とビニールプールとかをふくらますためのフットポンプ。吸引器の吸引ビンの吸引器につながっている側の管にフットポンプの吸う側をつないで完成。自宅の吸引器ではダイレクトにつながりました。

卵の白身はやっこさという感じで引けましたが吸引圧は市販の足踏み式吸引器よりは低いです。フットポンプを変えるともう少し吸引圧は上がるかもしれません。

《結論》

発電機やバッテリー、車のシガーライターなどの電力確保が重要かと思えます。神奈川のALS患者さんは、停電時に呼吸器の電源を車から取ったそうですが、夜間は近隣への迷惑を考えアンビューバッグを押し続けたそうです。非常時に自家発電を備えた病院へ避難入院できる体制を患者一人一人が整える必要があります。

2011/04/25 景山敬二